

令和2年度 第1回八代市総合教育会議 会議録

(令和2年12月22日)

令和2年度 第1回八代市総合教育会議 会議録

- 【開催日】 令和2年12月22日（火）
- 【場所】 八代市千丁支所2階大会議室
- 【出席者】 中村博生 市長
北岡博 教育長
富田壽人 教育委員
松永松喜 教育委員
水田千春 教育委員
奥村留美子 教育委員
- 【出席職員】 松本浩二 市長公室長
梅野展文 秘書広報課長
宮田徑 教育部長
松岡猛 教育部総括審議員兼次長
和久田敬史 教育部次長
松川由美 教育政策課長
高嶋宏幸 学校教育課長
竹下圭一郎 教育施設課長
岩崎龍一 生涯学習課長
入佐正夫 教育サポートセンター所長
松村哲治 博物館未来の森ミュージアム副館長
廣兼和久 危機管理課長
豊田浩史 農林水産政策課長
小野高信 スポーツ振興課長
陣内敬貴 学校教育課指導主事
- 【事務局】 山本雄二 教育政策課長補佐兼教育政策係長
草野弥生 教育政策課主査
- 【協議事項】 (1) 小学校運動部活動の社会体育移行について
(2) 学校給食に使われている食材について
(3) 被災した児童生徒への対応策と学校等におけるこれからの危機管理の在り方について
(4) 新たな学力向上の在り方について
(5) ICTを活用した教育活動の充実について

1 開 会 (午後0時58分 開会)

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 小学校運動部活動の社会体育移行について

小野スポーツ振興 資料により説明

課長

松永委員

去年発足してからどうなっているのか、ましてコロナ関係で
どういう状況なのか心配だったので、今回議案として提案し
た。

定期的に現状報告をお願いしたい。

市長

学校休業中にいろいろな問題が出たが、対策ややり方につい
ては、それぞれのクラブで連携をとっていただき、ある程度で
きたのではないかと考えている。

こういう体制を積み重ねていけば、きちんとした形でできあ
がるのではないかと期待している。

教育長

新型コロナウイルスの関係で、練習場所が制限されたりとい
ろいろあったと思うが、苦情や要望は届いているか。

小野スポーツ振興

課長

学校が休校したり、体育施設や学校施設の利用ができなかつ
たりということで、いつから利用できるかという問合せが多
かった。

すぐ連絡をする必要があったため、各クラブの代表者にお願
いして、メールを登録してもらおうようにし、文書で出す前に、
メールを出す対応をしている。

校区やクラブによって、クラブの規模とか練習の時間帯とか
が違うためか、各校区からのアンケートをとったときに指導者
の確保・練習時間・夜間照明の問題とか意見や問合せが多かつ
た。

この前、クラブの代表者を集めて会議を行い、各クラブの状
況を説明して、このクラブはこういうことをやっているよとい
うことを紹介することで、他の学校のスポーツクラブも参考に
されたように感じた。

教育長

今回小学校のほうで新型コロナウイルス感染症の陽性者が
出たことで、予約を入れられて夜に社会体育のスポーツ活動を

楽しみにしていらっしゃる方に連絡をとっていただくことが発生したが、その節はよろしくお願ひしたい。

富田委員

加入者の件で質問がある。

自分が所属する会でも、コロナがあると例会が開けないので辞めるという話があった。

今回これが続くと、どのような対応が必要かと思うが、いかがか。

小野スポーツ振興
課長

今年については、3月から活動制限があった。

八代っ子クラブの活動指針としては、4年生から加入ができる。例年ならば3月から4月にかけて加入していただくが、その時期に活動がなかったため、なかなか部員の確保ができなかった。

総数は把握していないが、クラブへの加入がかなり少なかったと聞いている。

八代っ子クラブは社会体育になるが、学校を通じての募集がいいのか、募集の方法もどういう風にしたらいいのかというクラブの代表者からの問い合わせもあった。

通常のクラブの登録の流れと今年は違った。クラブを再開したと思ったらまた休まないといけないといった部分があり、環境としては子供たちにも何かあったのかなと思う。

奥村委員

新しい体制で部活動が進んでいくことは、保護者ばかりではなく社会全体で理解していただけたら、スポーツに親しむ子供たちの育成ということでも有効かと思う。

ただ、自分の経験上、部活動というのは生徒指導上もある意味貴重な存在だった。

そういった意味では、「揺れている子供」がいる場合、保護者と相談して、担任として、クラブに入ってみらんねとか、子供たちに誘ってみらんねというように、学校や学級で誘ってみたり、あるいは参加を渋っていたり休んでいる子供に直接声をかけたりしていた。

今後は、今申し上げたようなことも含めて、社会人の指導に移行した中で配慮していただけたらと思うが、そういう面について協議会の中で話したりすることがあるのか。

小野スポーツ振興
課長

八代っ子クラブの運営等についての検討課題については、連絡協議会の中で検討を行っている。

おっしゃられるとおり、教育的視点を持った八代っ子クラブ

であるので、中には勝利主義に走る指導者もいるので、教育的意義を踏まえたクラブであるといった指針の説明を、指導者講習会を通じて話していきたい。

奥村委員 とても大変なお気遣いが必要だと思うが、どうぞよろしくお願いしたい。

市長 大変だと思うがよろしくお願いしたい。

(2) 学校給食に使われている食材について

松川教育政策課長 資料により説明

水田委員 給食の安全性について、日常食べているものが安全なのか、皆さんに考えていただきたくて議案を提案した。
農薬の使用量が、日本は全世界第3位だそうだ。
子供たちの自閉症の有症率は、韓国が第1位で日本は第2位。農薬の使用量と自閉症の有症率がリンクしているということで、目をつぶってはいけないのではないかと思う。
私が気になっているのが、小麦。パンや麺類の材料の小麦がほとんど輸入に頼っている。世界で輸入を拒否されているような小麦を日本は輸入しているそうだ。
熊本県は、米粉パンとか県産小麦を使ったパンとかを使っており、頑張っている部分もある。米粉パンを増やすか、もし輸入に頼るのであれば輸入のオーガニック小麦にちょっとでも変更していく方法がないかと思っている。
今年、有機農作物を学校給食に導入するための支援として農水省が1億5000万円の予算を発表している。
全国で1億5000万円の予算ならば、微々たるものかもしれないが、農水省も考えているので、これに農水省の予算に手を挙げて予算を獲得するとかできないかと思っている。
資料の10ページで、支援学級、通級学級の利用者が記載されているが、支援学級の認知度が高まって人数が増えているのもあるだろうが、学校全体で見たときに、落ち着きのない子供が増えている、指導のしづらい子供が増えているという現実があると思う。
1996年に農薬や遺伝子組み換えを使ったものを輸入するようになったらしいが、親世代がそういった食べ物を常日ごろから体に入れて、そして子供世代もそれで育っている。このままでは、増えていくのではないかと危惧している。

10ページの4番目で、国内でもオーガニック給食を取り入れている学校もある。予算がかかってしまうことなので、強くは言えないが、このコロナ禍において子供たちの免疫力を考えた場合、表面上の安心安全だけでなく、本当の栄養が詰まったものを、せめて給食だけでも子供たちに食べさせられないか。農薬をかけたり化学肥料を使ったりしてしまうと土の中の微生物が死んでしまうそうだが、栄養がいかない野菜を私たちは食べている。

いろんな方が、食べ物は危ないよといった本を書いているので、ぜひ八代市でも勉強してほしい。

口に入れたものが体を作る。健全な肉体に健全な精神が宿るということを念頭に入れて、給食がお手本になるようにしてほしい。

松川教育政策課長

現役のお母さんでもいらっしゃるの、そういうお声が節に伝わる御意見だと思う。

給食でも、子供たちに安心安全な食べ物をということで取り組んでいるが、集められる量だったり、手に入る調味料関係はほとんどが外国産であったりということもあるので、市としてもできるだけ範囲で、経費との兼ね合いもあるので、そのような御意見があることを学校給食会だつたりに伝えていきたい。

水田委員

少しずつでもいいので、研鑽のほうをお願いしたい。

富田委員

給食センターの場長をしていたことがあるので。

場長も調理室の方も栄養士も一生懸命頑張っている。食中毒とかもほとんど八代市では起こっていない。安全安心な食を提供していると思う。

どこか一つずつからでも行えればいいと思う。予算の関係で沢山はできないので、今年はこれをやりましたということで、順次行っていけばいいと思う。

市長

学校給食でも一番気を使っている部分だと思う。

水田委員の意見は、まだまだ現状では足りないという話ではないだろうか。

このことは、子供たちにとって重要な部分であり、学校だけではなく家庭でも一緒にやっていかなければならないことだと思う。

このことについては、気をつけていろいろと取り組みたいと

考える。

(3) 被災した児童生徒への対応策と学校等におけるこれからの危機管理の在り方について

高嶋学校教育課長 資料により説明

水田委員 ついこの間も坂本の水害の状況がテレビで放送があり、詳細な状況を再現VRで放送された。ぐっと胸にささるような感覚がした。子供たちが見た場合、子供たちの心のケアが心配になった。

もともと心のケアをされていると思うが、今後もしていただきたいなと思う。

富田委員 12月14日に子供たちが元の学校に帰ることができたのが本当によかった。私も水害の状況を見てきたが、今まで経験したことがないような災害であったが、今後も災害があると思う。

そういった中で気になっていることがある。

学校のプール指導の中で着衣指導もあるけど、子供たちが水を恐れてはいけないと思うので、着衣指導と共に救助法を教えるおかないといけないのではないかな。なかなか急にはできない。水泳の時間にそういったのを組み入れて中身を充実させるのが大切だと思う。水から逃げてばかりでは、かえって死に至ることがあると思うので、指導の中身の変更があっていいかなと思う。

奥村委員 今回の会議の議案の提出が10月頃であり、どうなっているんだろうか、どうなっていくのんだろうか、という思いばかりが大きくて、今日つぶさに報告をいただき、さすがだなと思った。

これからもぜひお願いしたい。

14日に本校に帰るという話を聞いて、先日八竜小学校に行って校長先生から話を聞いた。今回の報告でなかったことを紹介したい。

ハーモニーホールに子供たちが避難しているときに、子供たちに授業のまねをさせてもらった。

私が、「大変でしたね。」と1年生に言ったところ、「泥や水が家の中に入ってきました。僕は怖くなって泣き出してしまいました。でも自衛隊の人に助けられました。」と答えた子がいた。

この子のことを担任に伝えたところ、豪雨の一週間後によく会うことができたときに、この子の第一声が「先生、大丈夫でしたか。」ということだったそうだ。

コロナで授業どころではなかったという話を聞いていたが、この子だけではなく、ちゃんと子供たちの心が育っている。

14日の子供たちの様子を聞いても、浮き足立った様子はないかったそうだ。通常の教室を始めることができたのは、「保護者と教員が、八竜での授業ができるように運んでくれたからだと思います。」と校長がおっしゃっていた。

子供を守り育てるといふ親御さん、先生方の取組、そこを支援する教育委員会・関係行政がつながりあって、ここまでこれたのかなと思う。

コロナがあって、今後どんな災害があるかもしれないということも思ったので、今回総括資料・検証資料が欲しいとお願いしたいと議案調査に書いていたが、この検証を踏まえて今後どうしていったらいいのか、学びたい気持ちで総合教育会議に参加させていただいた。

ちなみに中学校の校長先生から、「生徒たちが率先して弟や妹、お年寄りを避難させたみたいです。」という話があったのも、直前にされていた防災教室が生きて働いている。防災計画・防災教育にしても、関係機関・関係者が自分事ととらえて、命を救うんだ守るんだという思いで、これまでのことをしっかり教育や計画に活かしていったら、素晴らしい・大事なことに繋がっていくと思う。

高嶋学校教育課長

12月11日の引っ越し作業の時に、教育長と現場に行った。河岸が崩れているところを見たら、子供たちは当時のことを思い出してはしないかなと教育長と話をしたところであった。

心のケアが必要であるということで、県から3名スクールカウンセラーを派遣してもらっているが、継続して心のケアを図ってまいりたい。

駐車場もきれいになっていたが、花壇などにも地域の住民の方が水やりをされていたそうだ。給食も月曜日からできた。いろんな人の支えでできた。

奥村委員

15ページの(3)今後についてで「自助」という言葉があるが、これはとても大切な言葉であるが、学校において防災教育を行う際にもう一つ大事にしたいのが「共助」。先ほどの人命救助の面も含めて、自助・共助の防災教育ができたらいいなと思った。

教育長

八竜小・坂本中に物資関係でもたくさんのところから多くの支援を行っていただいた。皆様方のおかげで助けられたなという感じがする。

手前味噌だが、子供たちの学ぶ場所が変更するたびに、どういふ準備が必要か教育委員会の職員に直ちに組みんでもらった。職員にも感謝している。

話にあった子供たちの心のケアだが、東日本大震災の話を聞くと、数年後にいろいろな影響が出てくると聞いているので、引き続き子供たち先生たちの心のケアを継続していかなければならないと思った。

着衣水泳の話があった。今回は坂本地域の話であったが、平野部に災害が来ないという保証はないので、坂本町の話に終わらせず、八代市内の各学校においても訓練、防災への対応を今一度見直しをしていただけるように教育委員会からも進めていきたい。

奥村委員

いろんな対応をしてもらっているが、不満を抱かれる人がいる。不満の根源は不安に基づくものだと思うが、不安に思うのは状況が分からない。可能な限り、情報を出してもらおうと納得される部分もあると思う。適宜、公表に配慮をいただけると、要らぬ心配をしないですむだろうと思う。

市長

これは坂本町だけの問題ではない。今回の災害は、昭和40年以降初めての大水害であった。坂本の水害の現状を、学校単位で視察をしてはどうか。共助ということが言われたけれど、子供たちが共助することもたくさんあると思うので、こういった教育もしていかなければならない。

今回、萩原堤防が決壊しなかったから平野部までは被害が及ばなかったんだということを教えていかなければならない。

この点も学校関係で進めていただければと思う。

急にはできなくても、見学するのも教育の一環になると思うのでよろしくお願ひしたい。

(4) 新たな学力向上の在り方について

高嶋学校教育課長

資料により説明

奥村委員

コロナという非常事態だからこそ、確かな学力が大事。こういう非常事態にどう自分が行動したらいいか、それも確かな学力要素。

新しい学習指導要領で、身につけさせたい3つの指針の第一番目に、「学びに向かう力」と「人間性」までも書いてある。

これまで学習指導要領に書いてなくても、教員は子供たちの人間性の育成に努めてきた。コロナがあったり災害があったりしたが、子供たちに大きな事故がなかったのは、そういうことが学びとしてあったのではないかという声もあった。そういう声を私たちは大事にして、これからの授業づくりに対応していかなければならないのではないか。

学校訪問の際に、教育長は「やつしろスピリッツ」について触れられている。それと同じように「いきいきと学ぶ やつしろの子供」は継続的に子供たちに伝え、それを教える先生へ応援メッセージと伝わっていくことで、きっと目指す子供像になっていくのかなと期待している。

自らの命を守り、自らの将来を夢に描けるというのが、本当の学力だと思うので、学校教育課の指導をお願いしたい。

一つ危惧するのが、学力調査の問題がある。数値が出たら、「あの子は本当は・・・」とこのようなつぶやきがあったというのを活かさない状況にあると思う。なおのこと先生たちが一人ひとりの子供をどう見るのかという授業づくりや評価感を研ぎ澄ます必要がある。

先般35人学級が出たときに、ある新聞社は教員の資質を向上するのが先と書いてあった。この大所帯を維持してこれたのはそれだけで資質を発揮できているのではないかと思うが、子供たちが豊かに育っていくには、先生たち一人ひとりの自覚と物事を考えるゆとりを持って教育にいそしむことができるかということだと思う。

今の時代、物事を考えること思うことがきちんとできていける学校や社会環境であつたらいいと思う。

水田委員

19ページの「生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するために！」の中で、1行目に「認められる」「ほめられる」などの経験を多く積み重ね」とある。また左下の部分に「認め、ほめ、励まし、伸ばす」と親の姿勢を書いてある。

体罰が表立ってしまうので、「叱る」ということが抜け始めているのではないか。

体罰は絶対だめだが、子供たちに毅然とした態度を見せる、言うべきことを言うというのを、保護者も先生にも根底に持ってもらいたい。

いい事をした時だけ褒めるではなく、学校では叱っていたいるとは思いますが、いいタイミングでだめなときはだめと叱

ってほしい。そういう姿勢も大事だと思う。

学校訪問のときに学校の先生が小さい声で話していたので、子供たちに話を通るかなと心配したが、子供たちは集中して先生の話の話を聞いていた。

「素晴らしいですね。」と主任の先生に伝えたところ、「実は、コロナで休校の間に指導しました。」とおっしゃっていた。

先生同士での協力が大事だと思った。

子供たちには何があっても生き抜いてほしいということを指導してほしい。価値があるから生きるのではない。生き抜くことに価値があるということを日々指導してほしい。

富田委員

市の教育実践事項の中にある「適切な課題の設定」と「子供の活動時間の保障」というのがまずしっかりできたらいいと思う。

チャイムが鳴ってから授業に行くと、そこ45分の授業が40分とかになってしまう。

私は理科の教師であったが、子供にはわくわくどきどきする部分をどこに設定するか考えていた。先生が授業を組み立てていく訓練をしないといけないと思う。

子供は一生懸命するので、先生方は書いてある「簡潔・明瞭な指示と説明」をどうするか、先生たちがしっかりしないと子供たちは伸びないと思う。ぜひ頑張ってもらいたい。

市長

言われるとおりでなと思う。

「叱る」ということと「体罰」は違う場合もあるかと思う。叱れば体罰になると思っている人も結構いるのではないか。

褒められて、時には叱られることも必要だと思う。

ちょっとした声かけで大きく変わっていくと思うので、先生方が一番大変であるが、よろしくお願ひしたい。

(5) ICTを活用した教育活動の充実について

高嶋学校教育課長

資料により説明

陣内学校教育課指導主事

端末を使用したデモ授業を実施

水田委員

端末本体は重さがある。子供たちは重い荷物を学校へ持って行っている。もしタブレットを持つようになったら、教科書を減らせるのか。重さが増すのはいけないと思う。

高嶋学校教育課長

御指摘いただいて、そのとおりだと思った。

実際、動き始めてから課題が出てくると思う。校長会と連携を取り合いながら、柔軟な対応も必要だと思う。

富田委員

短期間で全校生徒にタブレットが行きわたったのはよかったと思う。

ずっと画面を見ると目の疲れの問題が出てくる。携帯電話の小さい画面をずっと見ている子供もいる。健康上の指導は余り言われませんが、指導が必要ではないか。

奥村委員

使いこなして、使い倒さないといけないと思う。まずは先生たちが使いこなせることと、次にどう使ったら効果的なのか研究が必要だと思う。

その先生だけではなくて、1年生から6年生までの系統の中で、学校全体での研究・検討が必要だと思う。これからの数年間は ICT が子供たちに効果的になるためには研究しないといけないと思う。

タブレットの中身を見たが、ドリル的な内容であった。過信ができない。タブレットの中に入ったソフトをどう使うか、そのソフトはこんな特性のものだとしてしっかり認識していないと、「これをしときなさい。」となってしまうのが心配になった。

それと、タブレットに入っているソフトを家で活用するのはいいが、ICT が導入されるもう一つの意義が、リモート学習ができるということ。インターネット環境が整わないと、リモートでの授業が難しい。八代管内ではインターネット環境が十分ではない地域もあるので、そういったところへの配慮が必要だと思う。

そういうのも含めて、校長会と十分審議されて、このタブレットをいつどのように使うか検討が必要だと思う。

その前提として先生たちがタブレットを使えること。先生たちのタブレットは4月以降と聞いている。

1月以降は子供たちがタブレットを活用するときは、先生の管理用のパソコンを使うことになると思う。成績管理や名簿管理を行う管理用のパソコンを指導に使うことで、情報が漏れてしまうことが心配である。

少しでも早く、指導だけに使える器具が先生方に整備できることを願う。

高嶋学校教育課長

先生方のタブレットは、配慮いただき、4月から配備できるようになったところである。

今、指摘があった情報管理などにも努めてまいりたい。

市長

先生たちのタブレットは、後で話が出てきた。

今準備している段階。現場でもいろいろ準備しているところで、アドバイザーを活用しながら、万全な体制になるようにしたい。

本日は、様々な御意見をいただき、総合教育会議が実りあるものになったのではないかと思います。

現場の方にも各意見を伝えてもらいたい。現場と市との連携をもっと密にしていかなければならないので、教育長はじめ教育委員そして教育部の皆さんにはよろしくお願ひしたい。

コロナ禍はまだまだ続くと思うが、皆さんにおかれては十分感染予防に努めていただき、また、寒くなってきたので健康に留意していただき、良い年を迎えていただきたい。

4 その他

なし

5 閉会

(午後2時55分 閉会)